

(34) 意思の伝達

意思の伝達は、「伝達できる」が 16,145,510 名(72.35%)で全体の 7 割以上が意思の伝達はできると回答されていた。「できない」は、5%未満であった。

表 I-54 意思の伝達

	度数	パーセント
伝達できる	16175510	72.35
ときどき伝達できる	3637322	16.27
ほとんど伝達できない	1479714	6.62
できない	1064211	4.76
合計	22356757	100.00

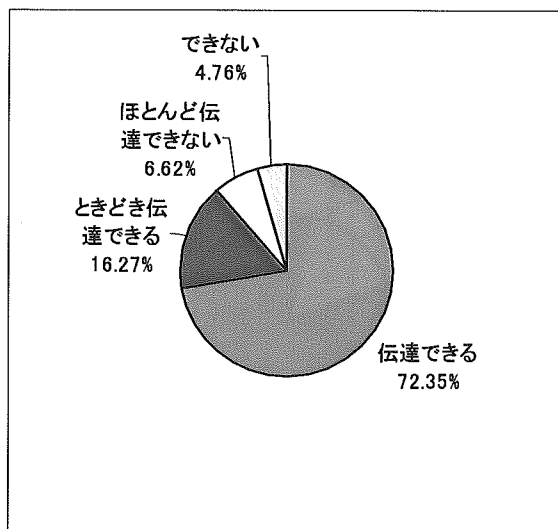


図 I-52 意思の伝達

(35) 指示への反応

指示への反応は、「通じる」が 16,228,072 名(72.59%)で全体の 7 割以上で最も高い割合を占めていた。自立している割合は、「意思の伝達」とほぼ同様の割合であった。

表 I-55 指示への反応

	度数	パーセント
通じる	16228072	72.59
ときどき通じる	4868748	21.78
通じない	1259937	5.64
合計	22356757	100.00

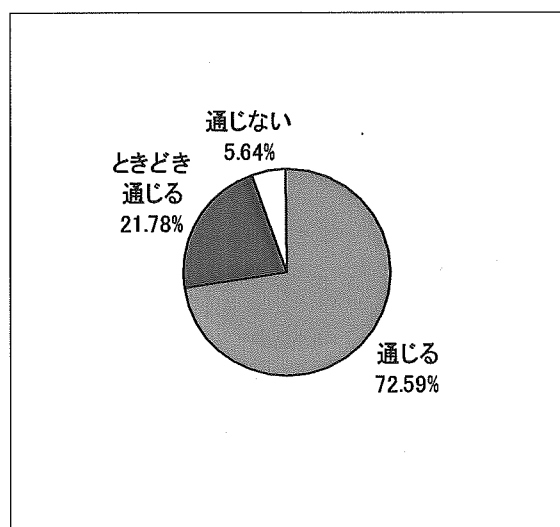


図 I-53 指示への反応

(36) 毎日の日課を理解

毎日の日課を理解しているかについては、理解「できる」が 14,613,056 名(65.36%)で全体の 6 割以上は、日課に関する理解があると示された。

表 I-56 毎日の日課を理解

	度数	パーセント
できる	14613056	65.36
できない	7743701	34.64
合計	22356757	100.00

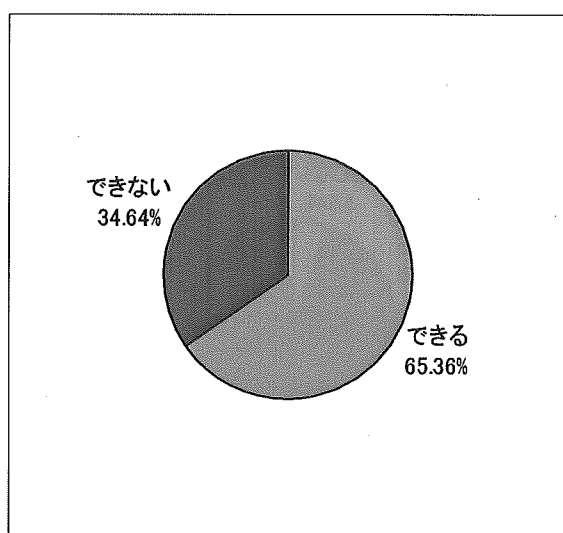


図 I-54 毎日の日課を理解

(37) 生年月日をいう

生年月日をいうことが「できる」のは、18,092,092名(80.92%)で全体の8割以上が自分の生年月日をいうことができた。

表 I-57 生年月日をいう

	度数	パーセント
できる	18092092	80.92
できない	4264665	19.08
合計	22356757	100.00

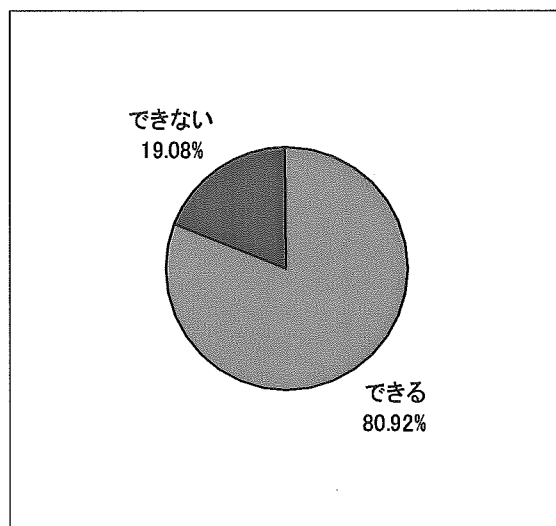


図 I-55 生年月日をいう

(38) 短期記憶

短期記憶は、「できる」が 14,933,362 名(66.80%)で全体の 6 割以上を占めていた。毎日の日課を理解している割合とほぼ同じ状態を示していた。

表 I-58 短期記憶

	度数	パーセント
できる	14933362	66.80
できない	7423395	33.20
合計	22356757	100.00

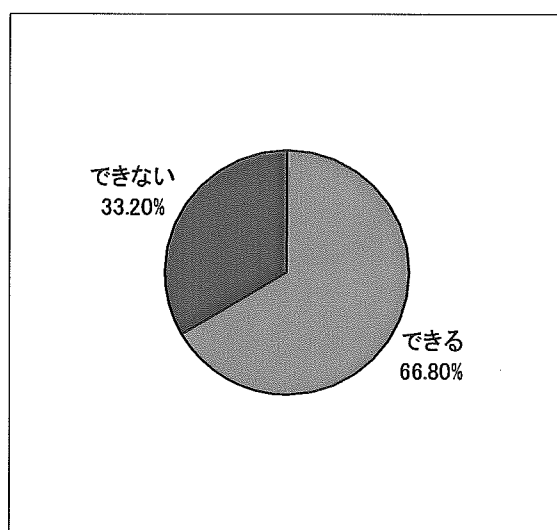


図 I-56 短期記憶

(39) 自分の名前をいう

自分の名前をいうことが「できる」のは、20,628,078名(92.27%)で全体の9割以上は、名前をいうことができた。これは生年月日をいうことができる者よりも多かった。

表 I-59 自分の名前をいう

	度数	パーセント
できる	20628078	92.27
できない	1728679	7.73
合計	22356757	100.00

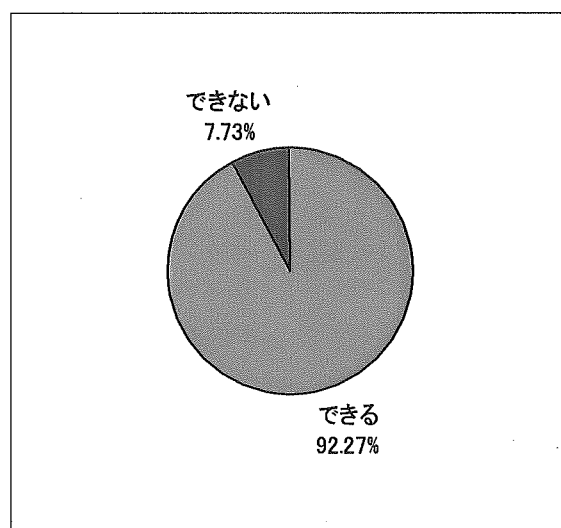


図 I-57 自分の名前をいう

(40) 今の季節を理解

今の季節を理解「できる」のは、16,162,087名(72.29%)で全体の7割以上を占めていた。  
この割合は、意思伝達できる割合と同程度であった。

表 I-60 今の季節を理解

	度数	パーセント
できる	16162087	72.29
できない	6194670	27.71
合計	22356757	100.00

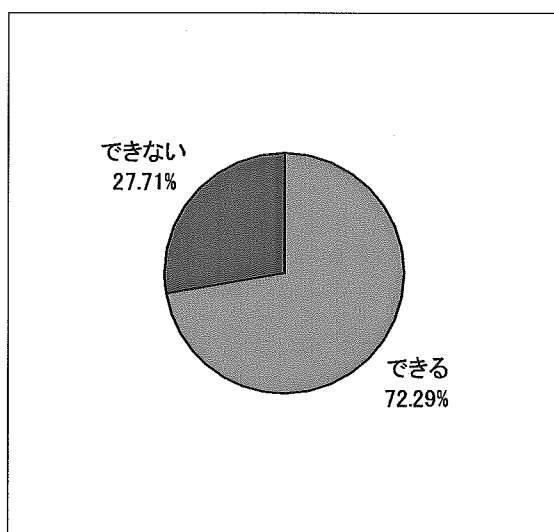


図 I-58 今の季節を理解

(41) 場所の理解

場所の理解が「できる」のは、17,730,249名(79.31%)で全体の8割近くを占めており、専念月日をいうことができるとはほぼ同じ割合が回答できると示された。

表 I-61 場所の理解

	度数	パーセント
できる	17730249	79.31
できない	4626508	20.69
合計	22356757	100.00

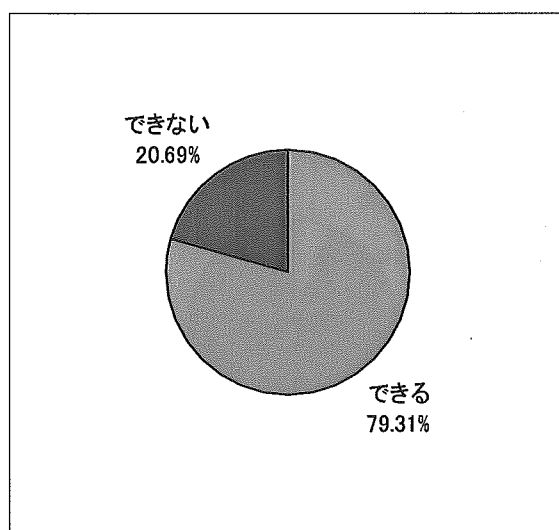


図 I-59 場所の理解



(42) 被害的

被害的な言動や行為の有無に関しては、「ない」が 20,127,432 名(90.03%)で全体の 9 割程度であったが、1 割の高齢者には、発生している問題行動であった。

表 I-62 被害的

	度数	パーセント
ない	20127432	90.03
ときどきある	941117	4.21
ある	1288208	5.76
合計	22356757	100.00

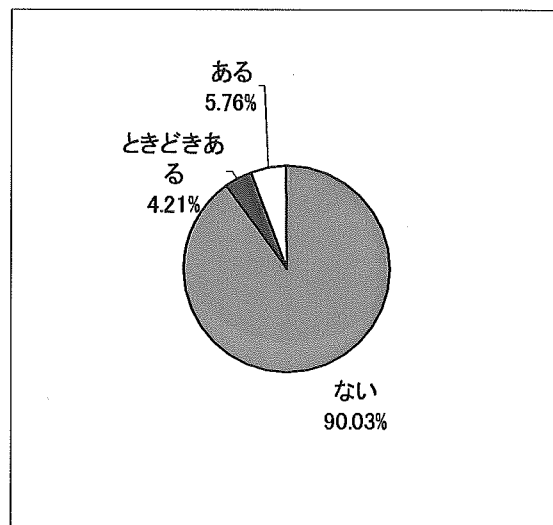


図 I-60 被害的

(43) 作話

作話の有無については、「ない」が 20,874,959 名(93.7%)であった。この問題行動の発生率は、7%前後である。

表 I-63 作話

	度数	パーセント
ない	20874959	93.37
ときどきある	571703	2.56
ある	910095	4.07
合計	22356757	100.00

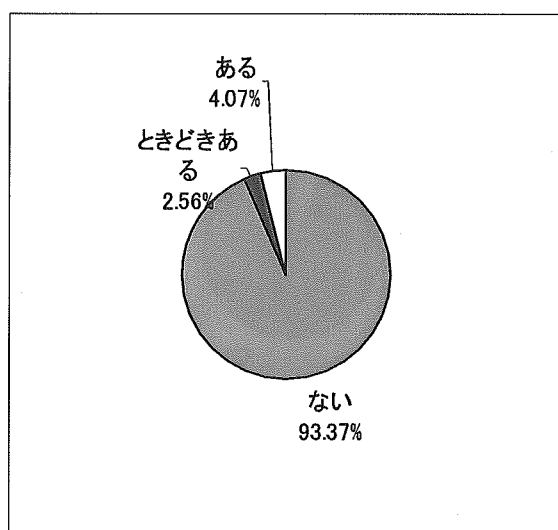


図 I-61 作話

(44) 幻視幻聴

幻視幻聴の有無については、「ない」が 20,013,882 名(89.52%)で全体の 1 割程度に幻視幻聴は発生していた。

表 I-64 幻視幻聴

	度数	パーセント
ない	20013882	89.52
ときどきある	1018704	4.56
ある	1324171	5.92
合計	22356757	100.00

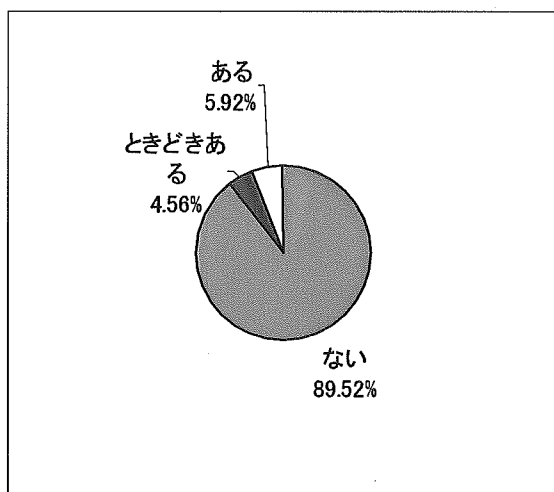


図 I-62 幻視幻聴

(45) 感情が不安定

感情が不安定な状況は、「ない」が18,620,708名(83.29%)で全体の83%を占めていたが、17%程度には、発生する問題行動であった。

表 I-65 感情が不安定

	度数	パーセント
ない	18620708	83.29
ときどきある	1558599	6.97
ある	2177450	9.74
合計	22356757	100.00

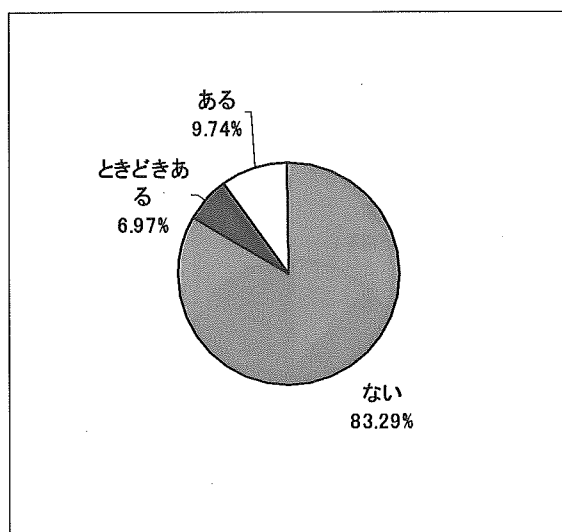


図 I-63 感情が不安定

(46) 昼夜逆転

昼夜逆転は、「ない」が 17,909,078 名(80.11%)で全体の 8 割程度であったが、「ある」が 12.03%、「ときどきある」が 7.86%と合計で 4,447,679 名もの多くの要介護高齢者に重症の睡眠障害である昼夜逆転の症状が発生していることが明らかにされた。

表 I-66 昼夜逆転

	度数	パーセント
ない	17909078	80.11
ときどきある	1757969	7.86
ある	2689710	12.03
合計	22356757	100.00

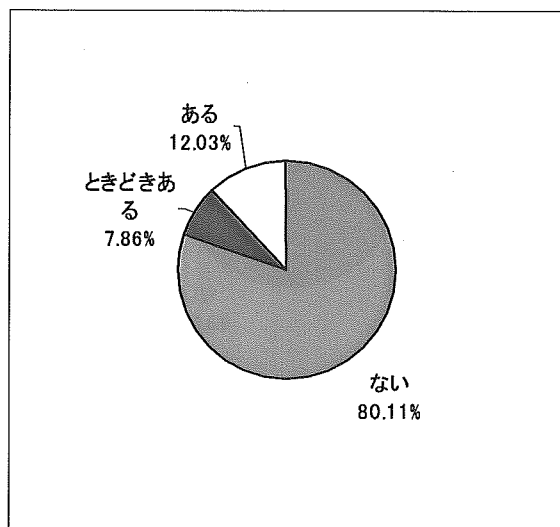


図 I-64 昼夜逆転

(47) 暴言暴行

暴言暴行は、「ない」が16,651,897名(89.38%)で全体の9割近くを占めていたが、被害的な妄想や幻視幻聴などと同様に1割程度の要介護高齢者にみられることが示された。

表 I-67 暴言暴行

	度数	パーセント
ない	19981897	89.38
ときどきある	960646	4.30
ある	1414214	6.33
合計	22356757	100.00

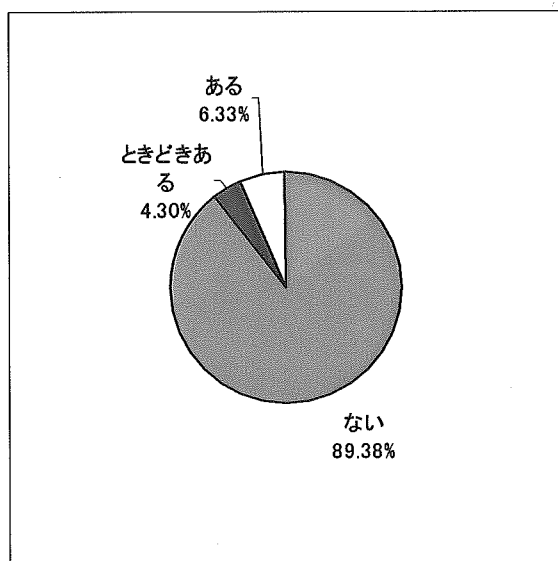


図 I-65 暴言暴行

(48) 同じ話をする

同じ話をするは、「ない」が 18,085,353 名(80.89%)で全体の 8 割程度を占めていたが、「ある」が 3,147,969 名(14.06%)と高い割合で発生していることが示された。

表 I-68 同じ話をする

	度数	パーセント
ない	18085353	80.89
ときどきある	1123435	5.03
ある	3147969	14.08
合計	22356757	100.00

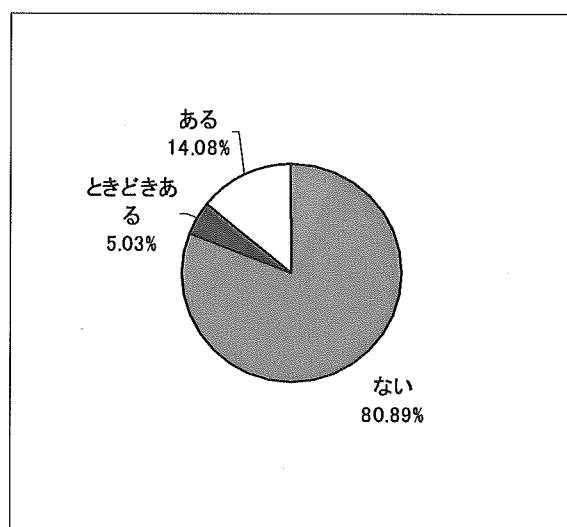


図 I-66 同じ話をする

(49) 大声を出す

大声を出すことの有無については、「ない」が 19,930,094 名(89.15%)で全体の 9 割近くを占めていたが、1 割は、大声を出すという問題行動が起きていることがわかった。

表 I-69 大声を出す

	度数	パーセント
ない	19930094	89.15
ときどきある	950459	4.25
ある	1476204	6.60
合計	22356757	100.00

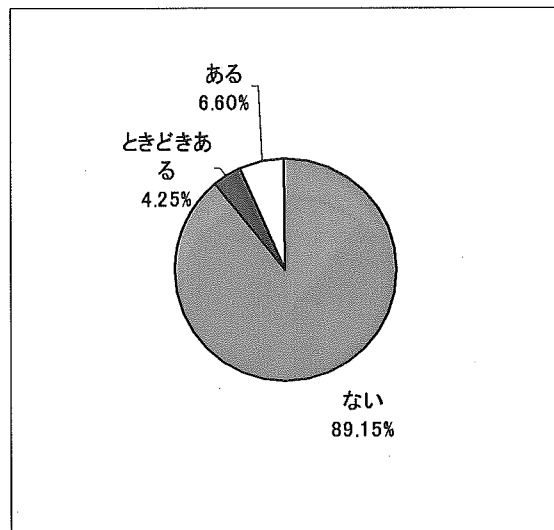


図 I-67 大声を出す



(50) 介護に抵抗

介護に抵抗すること「ない」は、18,529,834名(82.88%)で全体の8割程度を占めていたが、「介護に抵抗することがある」は2,378,645名(10.64%)と示され、感情が不安定な高齢者の割合とほぼ同じ17%の要介護高齢者が介護に抵抗することがあることがわかった。

表 I-70 介護に抵抗

	度数	パーセント
ない	18529834	82.88
ときどきある	1448278	6.48
ある	2378645	10.64
合計	22356757	100.00

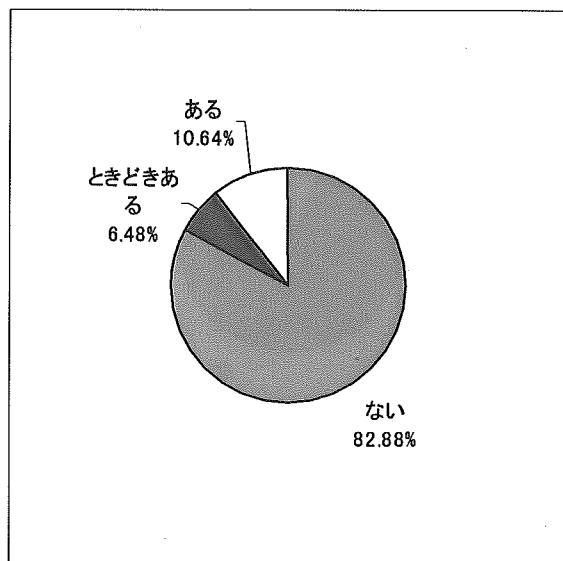


図 I-68 介護に抵抗

(51) 常時の徘徊

常時の徘徊は、「ない」が20,669,552名(92.45%)で全体の9割以上であったが、「ある」が1,233,957名(5.52%)と示され、わが国の123万人もの高齢者が「常時徘徊あり」と示された徘徊老人であった。

表 I-71 常時の徘徊

	度数	パーセント
ない	20669552	92.45
ときどきある	453248	2.03
ある	1233957	5.52
合計	22356757	100.00

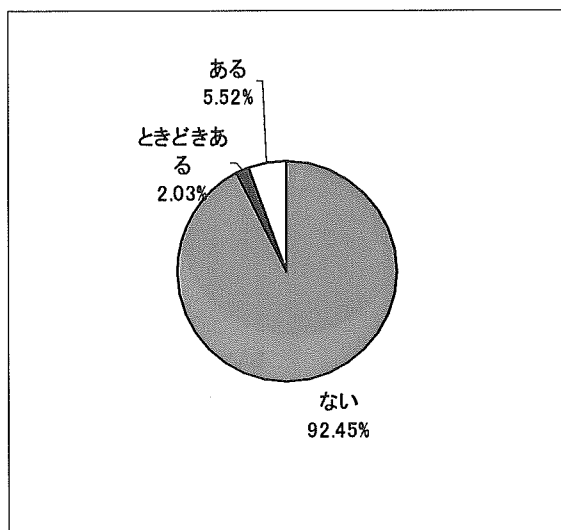


図 I-69 常時の徘徊

(52) 落ち着きなし

問題行動となるような「落ち着きがない」状態の要介護高齢者は、905,812 名(4.05%)であった。この問題行動が発生していたのは、全体の 6.69%の高齢者であった。

表 I-72 落ち着きなし

	度数	パーセント
ない	20859799	93.30
ときどきある	591146	2.64
ある	905812	4.05
合計	22356757	100.00

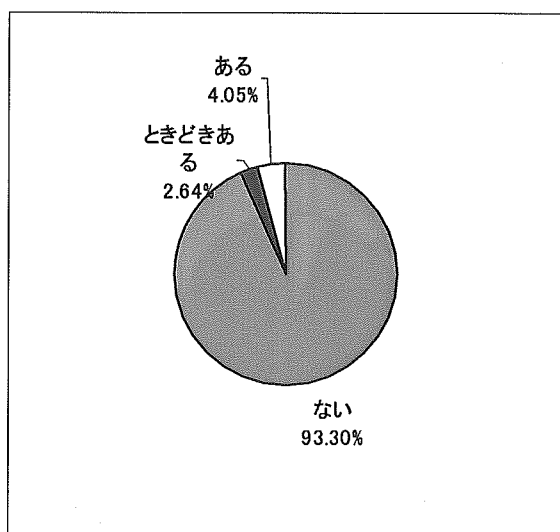


図 I-70 落ち着きなし

(53) 外出して戻れない

外出して戻れないという問題行動を持った要介護高齢者は、738,925名(3.31%)であった。

表 I-73 外出して戻れない

	度数	パーセント
ない	21270239	95.14
ときどきある	347593	1.55
ある	738925	3.31
合計	22356757	100.00

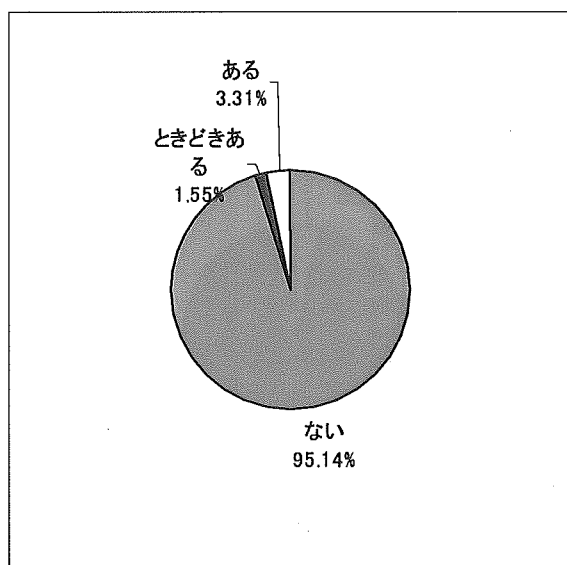


図 I-71 外出して戻れない